

新年明けましておめでとうございます。カナダ生活も5ヶ月目に入り、留学生活も折り返しに差し掛かろうとしています。こちらは10月に初雪が降って以降、暖かい気候が続いていたのですが、今月からは最高気温が氷点下の日もあり、雪が降りそうだなと私は少し気分が落ち込んでいます。

さて、12月は1年の中で最も重要な行事であるクリスマスがありました。想像していた通り、日本とはだいぶ異なり、伝統的なクリスマスを体験することができました。クリスマスツリーや家のデコレーションをしたり（カナダの家はクリスマスシーズンになるとこれでもかというほどライトを飾ります）、イブの日は家族みんなで七面鳥やケーキ（私の家はパンプキンパイでした）を食べたりしました。クリスマスにKFCに行ってチキンを食べるという話を友達にするとなぜクリスマスなのに安いファストフードを食べるのかと笑われました。ショートケーキも日本独自のもので、カナダの人は自分が食べたいケーキを食べるそうです。学校では2週間前からクリスマスウィークが始まり、ショートブレッドの家を作ったり、ホットチョコレートを配ったり、さまざまなイベントがあり、とても面白かったです。私はバンドのクリスマスコンサートでホルンのソロを任されました。また、スーパーにもたくさんのクリスマスグッズやチョコレートが並び、規模の大きさに圧巻でした。私もチョコレートを1袋試しに買ってみたのですが、量が多過ぎて友達やホストマザーに配ってやっとならべて食べ切りました。とにかくクリスマスは食べ物、特にチョコレートをたくさんもらうので、「あ、このままだと絶対に太る」というのが私の感想です。

カナダのクリスマスと言っても一括りではなく、家庭によっていろいろな形があります。なぜならさまざまなバックグラウンドを持った人がいるからです。私のホストファミリーはポーランド出身なのでポーランド式の伝統が少し混じっており、クリスマスの朝に暖炉に飾ってある靴下に入っているプレゼントを開けるという習慣がありました。また、私の友達の家ではホストファミリーの出身国の伝統料理を食べたという話もよく聞きました。またイブの夜にホストファミリーからクリスマスプレゼントもたくさんいただくことができ、ただの留学生なのにこんなにたくさんもらって良いのかと驚きの連続でした。

また、私はカナダでクリスマスという大きなイベントを通してダイバーシティについて考えることができました。最近のクリスマスは伝統や宗教的なものではなく、ただのイベントになってきているとホストマザーとクリスマスのあり方について話す機会がありました。ホストマザーは少しでもより宗教的で伝統的なクリスマスを好みますが、私は日本の宗教感ゼロのカジュアルなクリスマスも悪くないし、友達や他の家の独自色が

あるクリスマスも面白いなと思います。ダイバーシティが広がるということは伝統への尊重が失われるということなのか、伝統を守るということは他の文化を受け入れないということなのか。伝統とダイバーシティの関係性やあり方について深く考える機会になったクリスマスでした。我ながら私は立派な白鷗生だなと思います。

白鷗高校 16期生 次世代リーダー育成道場 11期生 N・Y



←スーパーに並ぶチョコレート
※これはほんの一部です



←クリスマスコンサートの様子
先生にソロを吹かないかと言われ、ピアノ伴奏に合わせて in the bleak midwinter という伝統的な曲をホルンで演奏しました。



←ソックス
暖炉にソックスを飾り、その中にプレゼントを入れるという伝統があります。真ん中が私のソックスです。